

原宿会(同窓会)を開きました。ストリーマーが映画「レイ、初めての呼吸」を上映しました。映画は、元兵士の父の死をめぐる物語です。映画会社では、映画監督として活動しています。バートナーのエドワードと一緒に脚本を書き、二人で立ち上げた映画会社を通じて、資金を調達し、制作現場しきりながら監督をし、プロデューサーとして配給もします。自分たちが信じるストリーを探し、社会的な問題に焦点を当てられる作品を、脚本から二人で作り出し、世に出すという作業です。

二〇〇九年に、デビューワークである長編作品「レイ、初めての呼吸」がアメリカ、日本、インドで公開されました。ストリーマーは、元兵士、父の死を知らない息子、そしてレイの三人が向き合います。ぶつかり合い

アメリカで映画監督として活動しています。バートナーのエドワードと共に脚本を書き、二人で立ち上げた映画会社を経て、資金を調達し、制作現場しきりながら監督をし、プロデューサーとして配給もします。自分たちが信じるストリーを探し、社会的な問題に焦点を当てられる作品を、脚本から二人で作り出し、世に出すという作業です。

アメリカで映画監督として活動しています。バートナーのエドワードと共に脚本を書き、二人で立ち上げた映画会社を経て、資金を調達し、制作現場しきりながら監督をし、プロデューサーとして配給もします。自分たちが信じるストリーを探し、社会的な問題に焦点を当てられる作品を、脚本から二人で作り出し、世に出すという作業です。

映画をつくること

梶野
純子

ながらも真正面から向合うことが対話を生み、回復を目指す、女性の再生物語です。

社会事業大学へは一浪受けた主人公レイが十年の時を経て、加害者の二人が安穏と暮らすアメリカへ渡り、そこで加害者

大学をやめて渡米しました。映画制作との出会いはそこで入学しました。そこまでして入学しましたが、大学へ入り、少しずつそ

の目標が変わり始めました。映画監督との出会いはそれからです。漠然と、何か自分が本当にしたいことを見つけないといけない！

— 1 —



発行所
〒204-8555
東京都清瀬市竹丘3-1-30

日本社会事業大学
同窓会
電話 042-496-3053
振替口座 00100-9-42448
ホームページ・アドレス
<http://www.harajukukai.jp/>

卒業後もずっと社大の一員として日本社会事業大学では、卒業生の方々との充実したネットワークを築いています。本学同窓会は、戦前の社会事業研究生、日本社会事業学校研究科・専修科・専門学校、短期大学、学部の卒業生、そして大学院の修了生の全員で組織されており、同窓会や大学の歩み、会員の活動などの情報を発信しています。



<http://www.harajukukai.jp>

梶野 純子 プロフィール
シカゴ在住・映画監督

1974年 長野県出身
1995年 社会事業大学入学
1996年 大学中退後 渡米
オハイオのプライベートカレッジ入学
1997年 ED RADTKE氏に師事
1998年 コロンビアカレッジ入学
2000年 卒業後自主制作映画に取り組む
シカゴ在住
2004年 HOMESICK BLUESでNFPシカゴ部門のベストフィルム賞受賞

DVDも随時販売しています。
ご興味のある方は下記まで。
junkokajinjp@yahoo.co.jp
日本語HP
http://tenganrei.com/blog/?page_id=312

「レイ、初めての呼吸」は昨年東京、大阪、神戸、アメリカ四都市そして印度で公開されました。二〇一〇年の春からまたアメリカで再上映され、今年フロリダで行われる「女性と芸術の国際映画祭」にも正式招待されています。

同窓生通信 1



山本伊都子さん
(旧姓渡辺 学部26期生)

社大の推薦入試に落ちた時の電報は、「表参道に枯葉散る」でした。(名文ですね)「このままでは、一生、社大の前を歩けない」と、大学進学に反対だった筈の母に一喝され、一般入試で入学。(今では、前を歩くにも、そこは警察署)けれど、無理な受験で、入学時にはバーンアウト状態。逃げ込んだ先が、マンドリンアンサンブルのサークルで、私はここで四年間、ひたすらに、周囲からちやほやされて、大学生活を終えました。もう、四半世紀も前のお話です。

現在は、福祉施設の第三者評価を主業務とする会社にいます。二〇〇五年、個人情報保護法がスタートした年に、プライ

バーシコンサルタントのライセンスを取りました。以来、仕事の中心は、個人情報保護のコンサルタントや、研修講師、雑誌等への寄稿が中心です。社大ネットワークで、たくさんお仕事いただきました。また、個人情報を軸に、守備範囲を災害支援等を含む事業継続計画まで拡げています。今年は、業界団体と連携して、福祉職向けの個人情報研修のカリキュラムを作り、受講修了生には、正式にライセンスを発行する仕組み作りに参加します。

【プロフィール】

マンドリンアンサンブルOG。(株)福祉規格総合研究所 勤務。認定プライバシーコンサルタント。未だに、サークルの先輩には頭が上がらない。埼玉県出身。東京都内在住。家族は夫と小4の娘と3人暮らし。



てがつてもいました。(笑)昨年、同期の訃報を受けました。これからは、彼が経験できなかつた人生を、残された同期生と一緒に、最後まで歩いていきたいと思っています。

▼そろそろ、締め切りなので、木村さんのところへ、データを送ったのですが、

どういう訳か、届かないみたいなの。で、すみませんが、井口さん(福祉新聞)の方へ送らせていただきます。できたら没にしてください。伊都子

同窓生通信 2



長友麻里さん
(学部48期生)

大学時代の思い出と言えば、大半はサークル活動で占められています。学生児童劇団ピッポに所属していたので、学生の頃はあちこちの児童館や保育園や施設に出向いては公演させてもらいました。授業が終わるとサークルのボックスに入り浸るか、バイトに向うかの毎日でしたが、大学後半になると実習が始まり、ゼミが始まり、卒論が始まると何だか慌ただしく過ごしたように思います。

思えば、現在の自分のすべての根っこは、社大にあります。今も続く交友関係は人生の宝ですし、結婚相手も、マンドリンアンサンブルの先輩にあ

輩・後輩との思い出がたくさんあり、それは今まで自分の支えとなっています。住むところが離れてしまった方々も多いですが、機会を作つては交流したいなあと思います。ここ二、三年中に実行したい事は学生時代にサークルでお世話になつた公演先の方々に会いに行く事です。

児童養護施設職員になると実習が始まり、つてもうすぐ二年が終えようとしています。大学時代に学んできた知識や技術を生かしきれているかと問われると、情けなく事に自信を持つて応えられない自分がいます。

今は日々精進、日々試行錯誤の毎日です。未熟なところが多くある自分でありますが、職場の方々に育てていただいています。子ども達からは励みをもらっています。それだけでこの仕事をしているやりがいや幸せを感じさせてもらっています。これからもたくさんの悩むでしょうが、後悔が少なくてすむよう日々を噛み締めて過ごしたいと思つています。

【プロフィール】

社会福祉学部福祉援助学科に2003年度入学、08年度卒業。現在は、清瀬市にある児童養護施設子供の家で児童指導員として従事中。

長友の名前ですが「長友麻里」が正しい漢字です。時々、真理や麻理と間違える方がいるので、改めてお伝えします。

同窓生通信3



白戸一好さん
(学部21期生)

先般、伊藤大先輩(同窓会副会長)から同窓会通信のお電話があり、ああ卒業してもう二八年になるのかと、あらためて時の早さを感じるとともに、原宿時代が懐かしく思い出されます。二期生は、学生百人の内男子が半数に満たず、しかもその内の半数を現役以外の「おっさん」が占めており、自分もその中の一人でした。



東京大空襲を体験して空襲被災者の人間回復を!

私は東京の下谷区上野で育ちました。一九四四年当時、家族は企業整備令で深川洲崎弁天町に転居し、両親と七人兄弟姉妹で、兄一人は出征(一九四四年長兄戦死)中でした。

四年後、東京大空襲で被災し、家財のすべてを失い、父、母、姉、弟の家族四人が水災死しました。私は十八歳、上野駅出札掛徹夜勤務で不在でした。八月三日赤羽駅で機銃掃射に遭い、右手を失い、戦後六四年、苦難な自立困窮の過酷な運命を強いられ生き延びてきました。前線銃後の区別なく首都東京は「東京戦場」でした。国政府は、「国民等しく受忍義務擁護大会」。東京大空襲裁判についても空襲

で優雅な日々を過ごしていました気がします。

今では、ほぼ禿げ上がった、カラオケ好きのエロ爺的様相をしており、ELTの曲など歌って、ギャルに、きもい、氣色悪い、素敵とか言われ恐縮している次第です。

さて、卒業後は、地元青森に帰り、尾上町社協に勤務し今日に至っていますが、平成十八年四月には近隣三町村が合併し、津軽平野の南端に位置する人口約三万五千の

地域福祉といえば、平成二十年十月に青森市浅虫温泉で青森と北海道の

合同同窓会を開催した際

に、当時、厚労省の「こ

れからの地域福祉のあり

方に関する研究会」座長を務めていた大橋学長に

御講演をいただき気持ち

を新たにしたことが強く印象に残っています。

この合同同窓会は、以前北海道で開催した経緯

があり今日は青森でとな

つたわけですが、北海道の同期(川瀬、広木、千葉)と人々に飲み明かし

た楽しいひと時でした。

二期生の同窓会も久しくやつていないので、是非

だければと思います。

同窓生通信4



豊村美恵子さん
(専修科2期生)

【プロフィール】
2005年、東京大空襲での体験とその後の人生を綴った『みたびのいのち戦禍とともに60年』(文芸社)を出版。2005年12月日本自分史大賞「昭和の記録賞」受賞。現在は、東京大空襲についての国の謝罪と損害賠償を求める訴訟の原告団副団長。千葉県我孫子市在住。83歳

被害者に対する国の方策は、憲法の個人の尊厳と人権、そして平和理念にあつていいのです。「人生被害」最後の生命を賭して、國の姿勢と責任を問いただし、求めた集団訴訟に立ち上がりたのです。提訴を決意するのに、六二年の歳月が必要なほど生易しいものがつたのです。提訴を決意するのに、六二年の歳月が必要なほど生易しいものではありませんでした。

二〇〇七年三月九日

京高裁に控訴しました。

提訴の記者会見です。

「私たちが戦争被害を受認したら、戦争は正しかったことになる。無謀な

戦争をやつて、国民がどん

がかりました。住民や職員の意識の違いなど未だ悪戦

がりたのですが、地

域福祉の仕事に携つてい

て、社大時代に培われた

アイデンティティ、福祉観が、私の仕事の原点となつてきています。

なっていることを今改め

ただければと思います。

「平和は、人間の生存

と生き延びてきました。前線銃後の

すべての人権の前提であつて人権の尊重なくして真

の平和はない」(第二六回

かを)。司法の公正な判決を求めた心の叫びのよ

うな原告の思いです。

伊藤大先輩が所属し、二部制に移行する頃の新聞東リーの活躍?したかどうかは定かではありませんが、一度は参加したいと思っていました。伊藤大先輩が残念です。又、先輩から引き継いだおいしいパイで助かつたり、三・四年時には巢鴨御殿(旧男子寮)

で優雅な日々を過ごしていました気がします。今では、ほぼ禿げ上がった、カラオケ好きのエロ爺的様相をしており、ELTの曲など歌って、ギャルに、きもい、氣色悪い、素敵とか言われ恐縮している次第です。

さて、卒業後は、地元青森に帰り、尾上町社協に勤務し今日に至っていますが、平成十八年四月には近隣三町村が合併し、津軽平野の南端に位置する人口約三万五千の地域福祉といえば、平成二十年十月に青森市浅虫温泉で青森と北海道の合同同窓会を開催した際

に、当時、厚労省の「これから地域福祉のあり方に関する研究会」座長を務めていた大橋学長に方に関する研究会」座長に勤務し今日に至っていますが、平成十八年四月には近隣三町村が合併し、津軽平野の南端に位置する人口約三万五千の地域福祉といえば、平成二十年十月に青森市浅虫温泉で青森と北海道の合同同窓会を開催した際

に、当時、厚労省の「これから地域福祉のあり方に関する研究会」座長を務めています。

この合同同窓会は、以前北海道で開催した経緯がありました。住民や職員の意識の違いなど未だ悪戦

がりたのですが、地

域福祉の仕事に携つてい

て、社大時代に培われた

アイデンティティ、福祉

観が、私の仕事の原点となつてきています。

なっていることを今改めただければと思います。

「平和は、人間の生存

と生き延びてきました。前線銃後の

すべての人権の前提であつて人権の尊重なくして真

の平和はない」(第二六回

かを)。司法の公正な判決を求めた心の叫びのよ

うな原告の思いです。

JCSW
ネットワークを
広げよう

翌日午前に、「札幌市
自閉症者自立支援センタ
ーゆい」を見学、昼食の
のち解散。

本支部は道南・道央・

道東と地域ごとの当番制
で毎年開催している。

金子修郎・学29期

山形から

◆九月二六日
同窓会福島県支部の總

会は、数年前から、県内

の福祉団体や大学などと
共催の公開講座とセット

で行っています。本

会員担当で開催予定。

鹿島丈夫・学12期

熊本から

◆ユニークな支部活動を

つづけてきているその紹

介をし、支部活動の参考

となればと考えます。

支部会員は、同窓会会

員と同様、学部卒業生、

会津大学学生ほか数百名

近くの参加者があつた。

金山町社協事務局長・

会津児相談判定課長・

喜多方市高齢福祉課長・

会津若松市障がい者総合

相談支援専門員による発

表、助言者として参加の、

ミ関係他)あわせて約七

〇名で構成されています。

毎年一回支部の社会貢

出向いての「検証」をす

員会)

崎副会長（学4期）が出席。母校の状況や参加者の近況報告など会員相互通の親睦を図った。

奥山繁（学3期）
◆九月二六日
同窓会福島県支部の總会は、数年前から、県内の福祉団体や大学などと共催の公開講座とセットで行っています。本

次年度は、浜通りの会員担当で開催予定。

昨秋十一月十四日（土）の会員担当で開催予定。

鹿島丈夫・学12期

熊本から

◆ユニークな支部活動を

つづけてきているその紹

介をし、支部活動の参考

となればと考えます。

支部会員は、同窓会会

員と同様、学部卒業生、

会津大学学生ほか数百名

近くの参加者があつた。

金山町社協事務局長・

会津児相談判定課長・

喜多方市高齢福祉課長・

会津若松市障がい者総合

相談支援専門員による発

表、助言者として参加の、

ミ関係他)あわせて約七

〇名で構成されています。

毎年一回支部の社会貢

出向いての「検証」をす

員会)

る作業ももち、高齢者福祉施設の協力もいただいています。

さらに、母校を通じて某団体からいたいた助成を元に、タイ・タマサ

ート大学生（福祉を学んでいる）若干名を熊本に招へいし、県内施設での実習」を体験するプログラムもこの三年に三回

つた。原宿時代の同窓会運営に尽力された矢島博士とができた。

原宿→帯広→会津）から同窓会への思いを込めた挨拶もあつた。母校校友室数間主管が出席。

氏（研五期・教務課長、

支援“障害者自立支援

法とICF“高齢者の権利を守るために”正念場を迎える日本の社会

福”などのテーマです。

この受け入れにはいくつ

かの課題があつた。タイ語

には、同窓会九州各県支

部にも呼びかけ、福岡・

佐賀・長崎・鹿児島・の

支部長も参加された一大

負担となつた。通訳の確

保なども立命館アジア太

洋大学学生を中心に行

いたく施設には大きな

行事でした。

公演会のほか学習会（勉強会）ももつてゐる。母

校で環境科学と高齢者の

行動科学をベースに、高

齢準備期から虚弱や認知

ラム実施にあつても、実

行委員会が結成され、地

方自治体や福祉関係団体、

報道関係ほか幅広い支援

がありこのことが成功を

収める大きな要素となつ

ている。（文責・広報委員会）

質疑応答ののち、母校近況報告・会員近況や情報交換、懇親会とつづいた。

◆十月二四・二五日
北海道から

恒例の北海道同窓会セミナーが札幌でもたれた。母校客員教授となられた御厨勝則氏（学5期）の「司法福祉としての更正保護」——ソーシャルワークの「正保護」としての更正保護にいかに機能できるか——と題する講演抨聴。氏は、社大卒後、保護観察官として更正保護に携われられ、平成二十一年三月まで更正保護事業・同関連業務をつづけて来られた。

◆十月二四・二五日
山形から

◆十月二四・二五日
福島から

◆十月二四・二五日
熊本から

◆十月二四・二五日
原宿会(同窓会)

学部七期(67年卒)

◆十月三一日 母校 昨年山形県天童での同期会で、次回は“同期の大橋さんが学長在任中に母校で”と、東京・宮本、神奈川・田中が幹事役。一部は母校近くの、国立ハンセン病資料館を訪ね、平沢保治氏（多摩全生園元自治会長）から話を伺った。その中で、朝日訴訟にふれられ、守る会で活動した参加者がおり感銘を受けていた。

母校会議室を借りての二部近況交流会、この会から伊藤同窓会副会長（元学生課職員）と数間校友室主管が出席。三部は、学生協会議室での懇親会。その後は、大橋学長を先頭に、清瀬駅前で遅くまで語り合つた。新しい仲間も多く感激ひとしお。北海道はじめ、山形・長野・奈良他から二二名の参加。

学部二六期(86年卒)

とのできた、クラス会になりました。

次回はまた五年後。全員が五十歳代になつた時を予定しています。それまで、ミニミニクラス会

藤村明子（ちびこ）

等を開催しつつ、歳は重ねても、学生時代の純粹な思いの原点を思い出しながら、また元気に集いあいたいと思います。

お願い・お知らせ

**◆年会費納付のお願い**

近年、同窓会の会費納入が停滞し、大幅な減少傾向にあります。円滑な運営ができますよう、会員各位のご協力をお願いいたします。

茗荷谷駅近くに開設した「福祉サロン」の経費も考えなければなりません。

同封の振替用紙をご使用下さい。郵便局窓口ではなく、ATMで納入されますと同窓会負担手数料が安くなります。勤務先等変更の方は余白に記入下さい。

◆内田貞子さん

内田貞子さんが、元旦に亡くなられました。専修課二期生。八九歳でした。

長い間、母校学生課職員として、在学生や卒業生にかかる業務に携わられました。いつも、ほほえみを絶やすことなく、えみを絶やすことなく、おられる方が、多くおられます。ご冥福をお祈りいたし

◆五味先生“論集”頒布いたします

・五味百合子女性福祉論集

一学生とともに歩む

林千代編 ドメス出版

・五味百合子先生想い出集 倦ぶ会編

右二冊、送料含三〇〇〇円現金もしくは郵便振替日本社会事業大学同窓会振替口座 00130-9-560492

◆母校同窓会対応窓口が変更となりました。

・校友室

ダイヤルイン

ファックス

042 (496) 3053

042 (496) 3051
数間（かずま）・横山

◆内田貞子さん

内田貞子さんが、丁寧な対応が心に残つておられる方が、多くおられます。ご冥福をお祈りいたし

五味百合子先生 想い出集

Yuriko Gomi

教え子が皆でここに集まり先生を「想う」

それぞれが心の中で先生との想い出を「想う」

先生が培われた社大の教育伝統を継承する事をしっかりと「想う」



「福祉サロン」を見ていたら、またかつた

石橋俊一
(学部一期 同窓会会长)

昭和五十年に五味先生を先頭にした同窓会の再建の呼びかけに応えて参画、以来、同窓会活動を展開してきた。「同窓会館」建設基金の呼びかけ、母校と協調・協力した各種の活動、四十周年記念事業への取り組み、仲村・五味先生とのヨーロッパ旅行などなど想い出は尽きない。

その中で、心残りであった「同窓会館」が「福祉サロン」として「文京社会福祉専門学校」をリニューアルして今年度中には開設される見通しがつき、喜んでいたいた矢先の訃報であった。「福祉サロン」と言う同窓会活動の拠点の誕生を見ていただきかつた。

一枚のスカーフ
(学部二期 旧姓越井)
清川紀代子

五味先生が共栄短大を去るとき、故吉田久一先生が友情講義をしてくださった。春日部駅まで吉田先生をお迎えに行つたら、吉田先生はゴミ箱の上でその日の講義録に目を通されながら、原稿を手直ししていらっしゃつた。今頃天国で、五味先生を迎えてくださつていると心強く思つてている。

私は二〇〇一年に第二の人生を踏み切り、社会福祉事務所を開設したとき八王子から春日部の隣の町までお祝いに来て下さった。電車を何回も乗り換えて・・・それ以来私の顔を見ると必ず『貴女の家は遠いね!』とおっしゃる。そのときお祝いにいただいたのが『紫色の絹のスカーフ』だった。

昨年二月、杉並の友人宅の帰り浴風園でお会いしたのが先生とのお別れになってしまった。軽く暖かなスカーフと共に私の青春時代は、心の中

十代後半となり、多くの友人知人が一人また一人と去つていくのを見送る年頃となつていて。いつ

「真・善・美・聖・五味先生」

神崎靖里(学部五期)

ある時、原宿の社大が全共闘の学生に封鎖され

た時、たまたま出張で上京していた小生は、ゼミの恩師小川利夫先生と渋谷で飲んでいた。そこに大学から連絡があり社大が封鎖されたと伝えてきた。

当時五味先生は学生会館で生活しておられた。小川先生が「五味先生は大丈夫か」と大声で聞き返

していた。五味先生が無事な事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

は「五味百合子が無事な

事だとわかると小川先生

と去つていくのを見送る年頃となつていて。いつ自分の順番が来てもおかしくないと覚悟しながら生きているこの頃であるが、もしあの世に大学とば、もう一度その大学に進んでみたいとしみじみ思う次第である。

味先生がおられると知れば、もう一度その大学に進んでみたいとしみじみ

生きているこの頃であるが、もしあの世に大学と

いふのがあり、そこに五味先生がおられると知れば、もう一度その大学に

五味先生、ありがとうございました
田島誠一
(学部十三期 大学院教授)

現在は、財団法人の理事長を務めながら実務家

教員として専門職大学院

で教えています。就職委員も務めていますが、五味先生のように一人一人

の学生を理解し、道を指

し示す「指導」は到底できません。改めて先生の偉大さを感じています。

五味先生、「相手の立場に立つて」とか「共感」

とか言葉はあふれています。

**大丈夫よ、足と口は、
まだまだ達者よ！**

(研究科十二期)

その日が五味百合子先

生や卒業生のことを話すとき、その人が目の前にいるような思いを何時も感じていました。制度が発達し、ソーシャル・ワーカーの専門性が高まってきたように見える今日、却つて制度に沿つただけの血の通わない対応がソーシャル・ワーカーと勘違えられているよりも感じられます。

先生は社大教員のすべてを学生課長としてささげられましたが、実はソーシャル・ワーカーの基本を身をもって私達に示していました。できの悪い学生は還暦を超えて、先生が去つてからこのことに気がついています。

丈夫よ！私はね、足と口は相変わらず達者なのよ

生自治会といっしょに反

すが、本当に相手の立場に立つためには、相手のことと良く理解しなければできないのですよね。先生がひとりひとりの学生や卒業生のことを話すとき、その人が目の前にいるような思いを何時も感じていました。制度が

エスコートしてくれギヤラリーに顔を見せて下さっていた。私の作品展では、スペースを利用してミニコンサートを続けて

いるのだが、二〇〇八年十月十一日は六年続いたフォルクローレ・グループの「マチャスカ」の最後のコンサートの日であった。いつものように野々村さんがエスコートして姿を見せて下さった。演奏は「コンドルは飛んで行く」で始まり「コンドルは飛んで行く」で終わつた。五味先生は終始、

人かの同窓生を伴つて観に来てくださるのだった。毎年開く作品展には何度に、お住まいから

ここ十年ほどは野々村ヨちゃん(学部二期)が、その度に、お住まいからエスコートしてくれギヤラリーに顔を見せて下さっていた。私の作品展では、スペースを利用してミニコンサートを続けて

係の仕事を去り、「画家」となった。

一九七五年私は福祉関

生との最後の出会いとなつた。心残りはない。あの世でも「足と口は達者」で東奔西走の日々を送つて居られるに違いない。

**就職では二度も
お世話を**

中井 紀代子(学部六期)

人生の大切な節である就職で二度もお世話をなつて大変感謝しています。

私たちの大学時代は六十年安保の学生運動が高揚したころでしたが、授業にはあまり出ないでサークル活動(部落研)や

個人的なことで印象に残っているのは、結婚の報告をした時、「あなた、名前(姓)は変えないで

しょう」と言われたことです。私はもちろんそのままになりましたから、先生から言われて、さすが女性問題の先生だと感激したことがあります。

NHKで録画されていましたのがあれば、四七年登場されているので、もう一度見て、先生を偲びたいものです。

が、その内容の取材もあつたようです。もし、東奔西走の日々を送つたものがあれば、四七年の先生がとても素敵に

対運動をしていたのですが、その内容の取材もあつたようです。もし、東奔西走の日々を送つたものがあれば、四七年の先生がとても素敵に

五味百合子略歴

| | |
|--------|--------------------|
| 大正 2年 | 6月 11日生まれ |
| 昭和 10年 | 3月 日本女子大学校社会事業学部卒業 |
| 昭和 10年 | 4月 中央社会事業協会社会事業研究生 |
| 昭和 11年 | 4月 母性保護連盟職員 |
| 昭和 14年 | 3月 中央社会事業協会職員 |
| 昭和 23年 | 4月 日本社会事業専門学校教授 |
| 昭和 25年 | 4月 日本社会事業短期大学専任講師 |
| 昭和 28年 | 7月 日本社会事業短期大学助教授 |
| 昭和 38年 | 7月 日本社会事業大学教授 |
| 昭和 56年 | 3月 上記定年退職 |
| 昭和 56年 | 4月 日本社会事業大学名誉教授 |

永遠の五味先生へ

渡辺 久(学部13期)
渡辺 節子(学部11期)
(旧姓 西垣内)

先生、あなたは私たちの心の中では

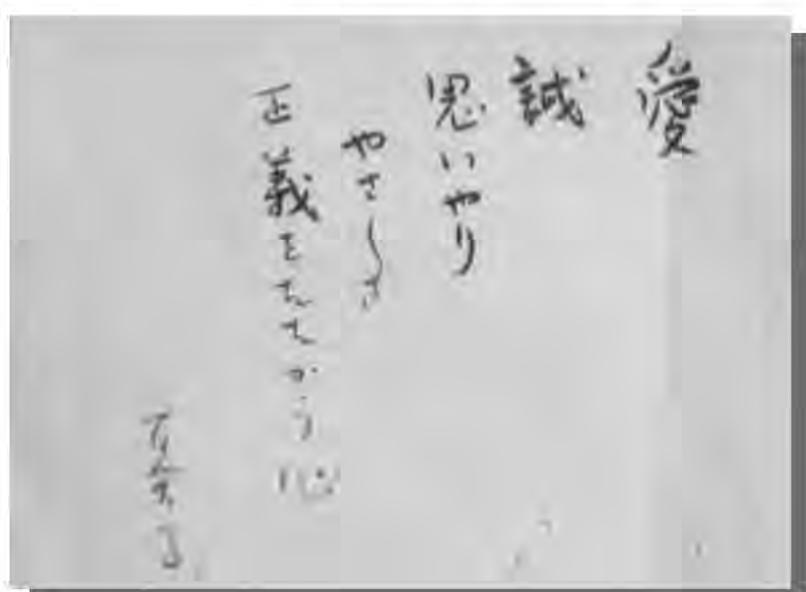
“偉大な五味先生”

しかしことにするとどういうわけか

“五味さん”になってしまいます。

ついついそのように言わせてしまうほど気さくで、

人としての魅力にあふれた先生でした。



ルボルタージュ

利用者の自立 支援を目指して

松田 晴恵
(旧姓石川・学部二二期)

居宅支援事業所の運営を
されているそうですが

単独事業所を運営しておりましたが、単独事業所では運営が難しく今は小規模多機能施設で働いています。ですから現場で仕事をして感じている」とお話をしたいと思います。

私が学んだ頃の社大は高齢者問題を学ぶ学生は少なく自主的な勉強も数人で行っていました。三年生の時来られた三浦先生の「在宅高齢福祉サービスの戦略」により高齢福祉サービスが高齢者の多様なニーズに対応できるように変化する時代になりました。特徴などを実感しました。特養のケースワーカーになるとには現場がわからないといけないと考え、ケアワーカー(当時は寮母職)として就職し、現場で介護を学び資格を取り今まで職場はいつもかわりましたが高齢福祉事業の仕事をしてきました。基礎構造改革により社

会福祉法ができる時社会福祉士の国家資格を取得するため養成校に入り社会福祉士の資格を取りました。そのような実践をしてきた私が今大きな課題と感じてるのは、「従事者の質の向上をどのようにするか」だと思っています。

学生時代の思い出

そのことに気がついた時自分が反対したことです。あの時社大の今後の教育の方向性として教授会が出た教育改革の骨子が「中間管理職の養成」の方針を持つことと、それを実現するために自身を大きく変えていました。その中間管理職という言葉に私自身大変抵抗がありました。さらに専門性を高めることは大切であるがそれ以上にどのような相談にものれるソーシャルワーカーになりたいと思つてしましました。

これからは「選ばれるサービス提供をしていかなければ生き残れない」と様々な研修などで多くの方から言われ選ばれる事業者となるようになつたことを実感していました。多くの学生がいろいろな理由で類構想に疑問を持ち、當時としては珍しい「学生大会」が開かれ中間管理職の養成に反対しました。学生が反対したことが大きくな

ったのであつたと思つていません。けれど自分自身は「中間管理職の重要性」を学ぶことができませんでした。

介護保険制度が導入される直前に高齢福祉サービス従事者に対する様々な指摘がありました。「今の高齢福祉施設の職員は井の中の蛙で大海を知らない。」と言われているようで、サービスの質の向上を図ろうとする従事者も少なくなかつたことを改めて知らされた

ときでした。神奈川県の特別養護老人ホームの中で先駆的に活動されていた施設別養護老人ホームの中で先輩者問題を学ぶ学生は少なくなく、私もその中にいました。その時隣の時社大の今後の教育の方向性として教授会が出た教育改革の骨子が「中間管理職の養成」の方針を持つことと、それを実現するために自身を大きく変えていました。その中間管理職という言葉に私自身大変抵抗がありました。さらに専門性を高めることは大切であるがそれ以上にどのような相談にものれるソーシャルワーカーになりたいと思つてしましました。

これからは「選ばれるサービス提供をしていかなければ生き残れない」と様々な研修などで多くの方から言われ選ばれる事業者となるようになつたことを実感していました。多くの学生がいろいろな理由で類構想に疑問を持ち、當時としては珍しい「学生大会」が開かれ中間管理職の養成に反対しました。学生が反対したことが大きくな

ったのであつたと思つていません。このようないふことを実感しています。

向上が図れる訳ではないということを実感しています。



学生時代。マンドリン演奏会(右)



晴恵マンドリン同窓会

プロフィール
1958年生まれ
1977年埼玉県立朝霞高校卒業
1982年社会福祉法人上村鶴生会特別養護老人ホーム「鶴生園」入職
1990年国際学園「横浜国際福祉専門学校」入職
1995年社会福祉法人福寿会特別養護老人ホーム「村岡ホーム」入職
2002年有限会社SRI副設
2006年有限会社湘南ピュア入職
2009年
医療法人社団オーフシー小規模多機能施設「ファミリーケア菱沼」入職

介護保険制度が始まり福祉の仕事をする人の数が大変多くなりました。学生の頃には想像できなかつたことですが、子供のお母さんでヘルパーの仕事をしている方

があちこちにいます。このよ

うにお話を聞きながら福祉従事者として目指してきた目標を再認識できたように思つております。